

誇りを胸に今日も買い物へ

金沢市立高尾台中学校 3年 多智 有彩

顔も名前も知らないヒーローたちに助けられ、私は今、ここにいる。

一〇一二グラム、牛乳パック一つ分より軽い。これが私の生まれた時の体重だ。NICUで高度な医療を受け、なんとか生き延びた。当然、とてつもない金額の医療費がかかった。だが、全額払ったわけではない。それは、保険会社からの支払いがあったからだと思い込んでいた。しかし、それだけではなかった。この作文を書くにあたり税金について調べていくと、実は税金からの支援も大きかったと初めて知った。まさか自分が生まれた時から税金にお世話になっていたとは思ひもしなかった。税金といえば、消費税や所得税などお金を取られているイメージが正直強かったが、見方が変わり始めていた。

そんな時、西日本では連日大雨が降り続き、家が浸水してしまったり、田んぼが川のようになったりしていた。自衛隊員が腰まで水に浸かりながらも、被災者を救助しようと懸命に活動している姿をテレビで見た。救出された方には安堵の表情がうかがえた。おそらく、濁流によって身動きがとれずとても辛い時間を過ごしていた中、自衛隊員の姿が見え、生きる希望を持てたからだろう。救出された方の気持ちに思いを巡らせていた時、突然私に雷に打たれたような衝撃が走った。命と税金は直結していると感じたからだ。実際に助けに行くのは自衛隊だが、それは税金からなる組織だ。つまり、税金が人々を守っているといっても良いだろう。助けてほしいと心から思った時、税金が救ってくれる。医療費や消防、救急、警察もそうだ。税金が平和な社会へと導いているのだ。命はお金では買えない。けれども、税金で救うことはできる。税金が、金額以上の役割を担い、より価値があるものに感じられ、思わず感嘆の声をあげた。これが、私の中で税金に対する見方が完全に変わった瞬間だった。

私の中で何かが輝き出した。それは税金に携われているという誇りだった。税金はまるでパズルのようだ。小さな一つのピースだけでは何もできないが、国民から多くのピースが集まることで、計り知れない大きさの絵が完成する。莫大なエネルギーを感じた。いざという時にその力を発揮するのだ。そんな偉大なものに支えられているのはとても心強く、ありがたい。そう思うと同時に、うれしさも感じた。私も社会の一員として消費税という形でお店を通して関わっている。私が払ったお金も世の中を支える一部になっていると気づいたのだ。

これからは、取られているとは思わない。誇らしさを感じながら税を納めていく。税を納める全ての人が、誰かを支え、助けるヒーローなのだ。誰もがヒーローに救われ、そして、誰もがヒーローになれる。

税と共にある社会は、どんな物語よりも素敵だ――。